

第4回 情報交換会

神奈川県日本語教育（一横浜市の外国人介護人材の受入れと学習支援の現状から考える）

日時 2026年2月14日（土）10:00-12:00

形式 オンライン

プログラム

- 10:00-10:03 開会のあいさつ 筑波大学 小野 正樹
- 10:03-10:10 外国人介護人材の受入れ制度の概要
横浜国立大学 国際戦略推進機構 教授 中川 健司氏
- 10:10-10:30 横浜市での外国人介護人材受入れの取り組み
公益社団法人 横浜市福祉事業経営者会 事務次長 福山 満子氏
- 10:30-11:00 受入施設での介護と日本語の学習支援の取り組み
社会福祉法人育明会 レジデンシャル常盤台・レジデンシャル百合
常務理事・統括施設長 高橋 好美氏

外国人介護人材本人の経験談（就労開始～現在）

- 社会福祉法人育明会 レジデンシャル常盤台 介護職員 メアス ペン氏
- 11:00-11:15 日本語教師が介護現場で感じた日本語面の課題
横浜国立大学 大学院教育学研究科教育支援専攻日本語教育コース 小田切 明菜氏
- 11:15-11:25 全体での質疑応答
- 11:25-11:45 質疑応答+情報交換（※ブレイクアウトルームは登壇者ごとのルームを予定）
- 11:45-12:00 ブレイクアウトルームでた内容の共有・まとめ
横浜国立大学 国際戦略推進機構 教授 小川 誉子美氏

ご報告

申し込み者113名、参加者総勢64名を得て、盛会のうちに終了いたしました。

第4回情報交換会では、横浜市における外国人介護人材の受入れと学習支援の現状を、介護外国人材を送り出す側、受け入れ側、日本語教師側からお話をうかがいました。

公益社団法人横浜市福祉事業経営者会では、現在、約60カ国（出身）の方々介護分野で就労を希望しており、これまでに約900名の外国人材を現場へ送り出してきました。会では横浜市で就職を考えている外国人に対し講座を開講しており、教材は独自のもので、学習者から寄せられた相談（「利用者とのように会話すればいいのか」、「日誌の書き方が難しい」、「日本人が作成した日誌を読むことができない」など）をもとに開発したとのこと。

社会福祉法人育明会 レジデンシャル常盤台・レジデンシャル百合からは、高橋 好美氏（常務理事・統括施設長）、実際に施設で介護職員として働かれているメアス ペン氏よりお話をいただきました。施設では、ミャンマー、イタリア、インドネシア、バングラデシュなど合計10カ国籍の職員を受け入れており、各国の文化を敬老祝賀会で利用者様に紹介したり、日本の制度である育児休暇を消化させたりと、働く外国人材の文化や価値観、そして家庭を尊重しており、外国人材が継続して働いていきたいような職場環境整備の工夫点をうかがうことができました。

また、キャリアアップを支援する体制も整えているそうで、介護福祉士の資格をとるためのバックアップを組み立てる部署を設置し、1ヶ月に1、2回スキルアップ研修や介護福祉士受験対策講座をおこなっているとのこと。具体的には、介護で使う用語の意味、法律、制度等の教授、さらに、月に2回、外部の日本語教師をよんで日本語講座を開講しており、職員の反応や理解度を日本語教師から共有してもらい、OJTに活かしているそうです。

さいごに、横浜国立大学の小田切 明菜氏よりお話いただきました。小田切氏は10年以上日本語教師としてのご経歴があり、さらに現在ユニット型特別養護老人ホームで介護職員としても働かれています。介護現場に入られ、どのような言語活動がおこなわれているのか観察をし、外国人介護人材への日本語学習支援の難しさについてお話いただきました。たとえば「外国人介護人材が『ちょっと質問』することが難しい」、「他の職員が使っている日本語を聞くチャンスが限られる」といった難しさがあげられました。「ユニット型特養の業務で必要な日本語とは」何か、「日本人職員・外国人職員の双方に無理のない学習支援方法とは」何か、課題解決のために調査研究をされているとのことでした。

参加者事後アンケートでは、以下のお声を頂戴いたしました。（一部抜粋）

- ・大変有意義な2時間でした。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。わたしはわたしの職業において、いただいたお話を活かせるように努めます。
- ・介護に限らず、就労者の支援に関わる取組み、課題は共通点多いと感じました。
- ・全て実践に裏打ちされた深みのある内容で大変勉強になりました。ありがとうございました。

ご参加者の皆様に感謝申し上げます。